

2024年度生産性向上支援訓練コース内容

主催：滋賀職業能力開発促進センター

コース番号	019	訓練分野	A.生産管理－管理手法
コース名	製造分野におけるDX推進		
正式な コース番号・ コース名	24-25-12-129-019 ※リーフレットには「コース番号」は左記の末尾3桁を記載しています。 - ※正式なコース名は、上記「コース名」と異なる場合のみ記載しています。「コース名」は受講者募集用に設定したものです。助成金の手続きの際には正式なコース名を記載してください。		
開催日時	2024/8/20 (火) 9：30～16：30 (昼休憩 12：30～13：30)		
会 場	ポリテクセンター滋賀 (大津市)		
対 象 者	中堅層・管理者層 ●製造現場で利用されているデジタル技術やデータの活用方法を知りたい方 ●自社に合ったデジタル化を図りたい方		
習得する スキル等	●製品やサービス、ビジネスモデルの改革 (DX) を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法		
ポイント	(1) 製造業においてDXが成功するために必要な要件を理解していただきます。 (2) 企業におけるDX推進活動に有効な考え方を説明し、自社の今後のDX活動の構想が描けるように進め方を学んでいただきます。実際に考えて、グループ討議を重ね、議論することで新しい気づきを発見していただきます。 (3) 演習を通じて、自社の生産プロセスを革新するためのDXの方策を検討していただきます。		
内 容	<p>1 製造業におけるDXの理解</p> <p>(1) DXとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい価値を創造するDX、製造業におけるDXとは ・日本式製造業の限界 <p>(2) スマート化を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートファクトリ、スマートプロダクト、スマートサービス <p>(3) DXの狙い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務革新と顧客価値の創造、リードタイムの短縮と生産性の向上 ・DX推進の現状把握と課題認識 【演習①】 アンケート <p>2 DX実現事例</p> <p>(1) DX導入事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートファクトリの紹介、デジタル技術で解決する事例 <p>(2) DXで解決したいものづくりの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・属人化した仕事の標準化、デジタル化による生産性・品質改善 ・開発～製造リードタイム短縮 【演習②】 グループ討議 <p>(3) データドリブンのものづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全社最適で推進するDX、開発～製造～サービスをデータで繋げる <p>3 DX推進の目標設定と解決策</p> <p>(1) ものづくりの課題抽出【セルフワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものと情報の流れ図、工程フロー図の作成 【演習③】 ものと情報の流れ図 or 工程フロー図作成演習 ・開発～製造リードタイム短縮 <p>(2) DXで解決する課題抽出</p>		

- ・業務革新、顧客価値創造に向けて
 - ・アナログ処理のデジタル化 【演習④】 工程データの整理
 - ・全社全体最適で推進するDX
- (3) 様々な課題をDXで解決する
- ・DX推進体制の整備、DXの目的・目標設定
 - ・取り組み優先順番の決定、DX推進マップの作成
- 4 DX推進の計画と実行
- (1) データドリブンものづくり実践
- ・PoCによるPDCA活動について
 - ・計画と実績の見える化 【演習⑤】 DX推進マップの作成
 - ・データ収集、蓄積、加工
- (2) 社内部門連携で進めるDX
- ・全社横断的なDX組織づくり、中長期DX推進の実行計画の策定
- (3) 社外資源の活用と連携
- ・システム開発の手順
 - ・アジャイル開発とフロントローディング
 - ・提案依頼書作成
- (4) DX推進人材育成と人材の確保
- ・DXを推進するために必要な技術と人材
 - ・人材育成の要点

実施機関	パナソニックエレクトリックワークス創研株式会社		
定員	15名	受講料	3,300円(税込)
使用ソフトウェア	実施機関・講師からのメッセージ		
持参品等	筆記用具	知識やスキルの習得に加えて、職場ですぐに実践できるように、ポイントごとに個人やグループの演習を組み込んでいます。	
備考	-		